

「JENESYS2.0」

2015 年度中国高校生訪日団第 6 陣 A コース

訪問日程 平成 27 年 12 月 8 日（火）～12 月 16 日（水）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した 2015 年度中国高校生訪日団第 6 陣 A コース計 122 名が、12 月 8 日から 12 月 16 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。（団長：雷彦広（ライ・ゲンコウ）河北省教育庁 人事処 副処長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、東京都をはじめ、京都府、千葉県、三重県、愛知県、宮城県、熊本県を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、高校や大学の訪問・交流を通じて、同世代の青少年同士の友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

12 月 8 日（火）

成田国際空港より入国
第 1・2 分団：皇居・二重橋見学
共通：オリエンテーション

12 月 9 日（水）

環境保護・省エネルギーに関する講義、上智大学訪問、歓迎会

12 月 10 日（木）

第 1・2 分団：京都府へ移動、金閣寺見学、嵐山見学、京都国際マンガミュージアム見学
第 3 分団：愛知県へ移動、名古屋市港防災センター見学、三重県へ移動、
和風温泉旅館での日本文化体験
第 4 分団：熊本県へ移動、水俣病資料館視察、和風温泉旅館での日本文化体験

12 月 11 日（金）

第 1・2 分団：京都府教育委員会表敬訪問、学校交流（京都府立園部高校、京都府立山城高校、
京都府立桃山高校）
第 3 分団：四日市公害と環境未来館視察、学校交流（三重県立四日市高校）
第 4 分団：学校交流（熊本県立八代東高校）

12 月 12 日（土）

第 1・2 分団：京エコロジーセンター見学、日本文化体験プログラム（能に関するレクチャー・体験）、
和風温泉旅館での日本文化体験
第 3 分団：日本文化体験プログラム（伝統工芸に関するレクチャー・体験）、愛知県へ移動、
名古屋城見学、リニア鉄道館見学
第 4 分団：日本文化体験プログラム（歌舞伎に関するレクチャー・見学）、水前寺公園見学、
熊本城見学、桜の馬場城彩苑見学

12 月 13 日（日）

第 1・2 分団：東京都へ移動、東京臨海広域防災公園見学、東京都庁見学
第 3 分団：宮城県へ移動、五大堂見学、瑞巖寺見学、松島見学
第 4 分団：京都府へ移動、二条城見学、金閣寺見学、嵐山見学

12 月 14 日（月）

第 1・2 分団：国会議事堂視察、学校交流（東海大学付属浦安高校、サッカー交流）
第 3 分団：学校交流（聖和学園高校）、仙台市天文台見学
第 4 分団：学校交流（京都府立鳥羽高校、京都府立鴨沂高校）

12月15日（火）

第1・2分団：TEPIA 先端技術館見学、浅草寺見学、商業施設視察

第3・4分団：東京都へ移動、商業施設視察

共通：歓送報告会

12月16日（水）

第1・2分団：羽田国際空港より帰国

第3分団：浅草寺見学、皇居・二重橋見学、羽田国際空港より帰国

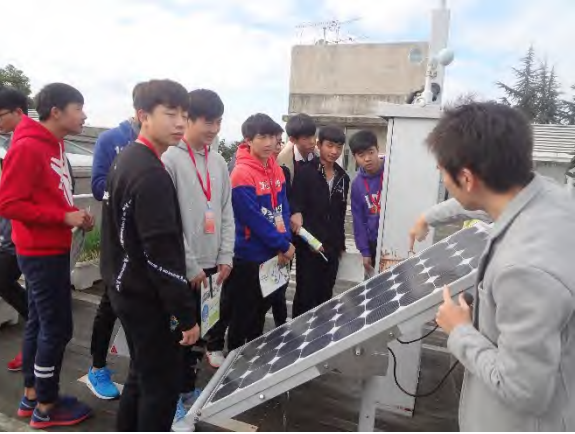
第4分団：浅草寺見学、東京臨海広域防災公園見学、羽田国際空港より帰国

3 写真

＜共通＞	
	
12月9日 環境保護・省エネルギーに関する講義 （東京都）	12月9日 環境保護・省エネルギーに関する講義 （東京都）
12月9日 听取关于环境保护及节省能源的讲座 （東京都）	12月9日 听取关于环境保护及节省能源的讲座 （東京都）
	
12月9日 上智大学訪問（東京都）	12月9日 歓迎会 川田勉外務省アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課地域調整官挨拶（東京都）
12月9日 访问上智大学（東京都）	12月9日 欢迎会 外務省亚洲大洋州局中国・蒙古 第一课地域调整官川田勉致辞（東京都）

	
12月9日 歓迎会 関東第一高校ダンス部生徒と交流(東京都)	12月15日 歓送報告会 雷彦広団長挨拶(東京都)
12月9日 欢迎会 与关东第一高中舞蹈部学生交流(東京都)	12月15日 欢送报告会 代表团团长雷彦广致辞(東京都)
	
12月15日 歓送報告会 訪日成果報告(東京都)	
12月15日 欢送报告会 团员汇报访日成果(東京都)	

<第1・2分団>	
	
12月10日 金閣寺見学(京都府)	12月11日 京都府教育委員会表敬訪問(京都府)
12月10日 参观金阁寺(京都府)	12月11日 拜访京都府教育委员会(京都府)

	
12月11日 京都府立園部高校訪問・交流(京都府)	12月11日 京都府立山城高校訪問・交流(京都府)
12月11日 访问京都府立園部高中并进行交流 (京都府)	12月11日 访问京都府立山城高中并进行交流 (京都府)
	
12月11日 京都府立桃山高校訪問・交流(京都府)	12月12日 京エコロジーセンター見学(京都府)
12月11日 访问京都府立桃山高中并进行交流 (京都府)	12月12日 参观京都生态环境中心(京都府)
	
12月12日 日本文化体験(能に関するレクチャー・体験)(京都府)	12月13日 東京臨海広域防災公園見学(東京都)
12月12日 体验日本文化(听取有关能乐的演讲并进行体验)(京都府)	12月13日 参观东京临海广域防灾公园(東京都)



12月14日 国会議事堂視察(東京都)

12月14日 参观国会议事堂(東京都)



12月14日 東海大学付属浦安高校訪問・サッカー交流(千葉県)

12月14日 访问东海大学附属浦安高中并进行足球交流(千葉県)



12月15日 TEPIA 先端技術館見学(東京都)

12月15日 参观 TEPIA 先端技术馆(東京都)

<第3分団>



12月10日 名古屋市港防災センター見学(愛知県)

12月10日 参观名古屋市港防灾中心(愛知县)



12月11日 四日市公害と環境未来館視察(三重県)

12月11日 参观四日市公害与环境未来馆(三重县)

	
12月11日 三重県立四日市高校訪問・交流 (三重県)	12月12日 日本文化体験(伝統工芸に関するレクチャー・体験)(三重県)
12月11日 访问三重县立四日市高中并进行交流 (三重县)	12月12日 体验日本文化(听取有关传统工艺的演讲并进行体验)(三重县)
	
12月12日 名古屋城見学(愛知県)	12月12日 リニア鉄道館見学(愛知県)
12月12日 参观名古屋城(爱知县)	12月12日 参观磁悬浮铁路馆(爱知县)
	
12月13日 五大堂見学(宮城県)	12月13日 瑞巖寺見学(宮城県)
12月13日 参观五大堂(宫城县)	12月13日 参观瑞严寺(宫城县)



12月13日 松島見学(宮城県)

12月13日 参观松岛(宫城县)



12月14日 聖和学園高校訪問・交流(宮城県)

12月14日 访问圣和学園高中并进行交流
(宫城县)

<第4分団>



12月10日 水俣病資料館視察(熊本県)

12月10日 参观水俣病资料馆(熊本县)



12月11日 熊本県立八代東高校訪問・交流
(熊本県)

12月11日 访问熊本县立八代东高中并进行交流
(熊本县)



12月12日 日本文化体験(歌舞伎に関するレクチャー・見学)(熊本県)

12月12日 体验日本文化(听取有关歌舞伎的演讲
并进行参观)(熊本县)



12月12日 水前寺公園見学(熊本県)

12月12日 参观水前寺公园(熊本县)

	
12月12日 熊本城見学(熊本県)	12月12日 桜の馬場城彩苑見学(熊本県)
12月12日 参观熊本城(熊本县)	12月12日 参观樱花马场城彩苑(熊本县)
	
12月13日 二条城見学(京都府)	12月13日 嵐山見学(京都府)
12月13日 参观二条城(京都府)	12月13日 参观岚山(京都府)
	
12月14日 京都府立鳥羽高校訪問・交流 (京都府)	12月14日 京都府立鴨沂高校訪問・交流 (京都府)
12月14日 访问京都府立鸟羽高中并进行交流 (京都府)	12月14日 访问京都府立鸭沂高中并进行交流 (京都府)



12月16日 浅草寺見学(東京都)

12月16日 参観浅草寺(東京都)

4 参加者の感想(抜粋)

○ 私達は中国の高校生だ。ほぼ同じ年の高校生との交流は、この旅行の忘れられない思い出だ。最初は、言葉が通じないのに交流なんて難しいし、何の意味もないと思っていた。しかし実際にやってみるとそうではないとわかった。熊本県立八代東高校に着いた時の心尽くしの出迎えを、私は忘れられない。早くから学校前の通りで中日両国の国旗を持ち、溢れる笑顔で迎えてくれた。校内に踏み入れるとあちこちから歓声が上がり、見上げれば校舎の窓という窓が学生達で一杯だった。その時は今まで感じたことの無い感動を覚えた。歓迎会では私達のために丹精込めたパフォーマンスとプレゼントが用意されていた。パフォーマンスはとても見事で、入念な準備が伺えた。また、私達はいろいろな授業に参加した。華道、茶道、バドミントンの授業を一緒に受けた。授業中は手も足もフル活用で、言いたいことを伝えた。そう、確かに交流は大変だった。でも、やっぱり楽しかった。常に互いの真心を感じ合えた。こうして私も友達が一人できた。思えば、私達は両手で握手しながらお互い気がはやって、英語も使わず自分の国の言葉で話していた。そう！あの時の、そんな交流が一番有意義なのではないか。私達の年代は、両国の未来を支える人材だ。今また種はもうゆっくり芽吹き始め、明日の希望の花を咲かせる時を待っている。そう思うと、心が希望で一杯になる。学校訪問は永遠に忘れない。

○ 今回の訪問で一番印象深かったのは京都府立園部高校への訪問だ。同年代の外国の高校生と交流するのは初めてだったので、私は最初とても緊張していた。でも少し交流した後、すっかり日本の高校生のペースにはまり、心から仲良くしようとしている彼らに心を打たれた。私も次第に一步踏み込んで交流し始め、その成果や楽しみを分かち合った。私達の間築いた厚い友情は、遠く離れても、心が通じ合う限り、いつも近くに感じられるだろう。

帰国したら友達や先生に、日本の高校生との交流の成果を伝えたい。日本の高校は学生の能力育成や部活教育を重視している。学生は表現力が豊かだ。両親や親戚や友達に、日本で見て聞いて感じたことを伝えたい。日本人は皆環境意識が高く、街は清潔でちり一つない。皆が分別しながらゴミを捨てる。それに日本人は、よく物事をわきまえていて礼儀正しく、公共の場で大声で話す人はほとんどいない。京エコロジーセンターの見学を通して、自分が責任を持って両親の環境保護意識を高めなくてはいいと思った。

○ 東京に着くと真っ青な空が見えた。中国で青い空が見られる機会は少ない。私達の来日のテーマは環境保護と省エネルギーだ。寺西俊一教授のセミナーに参加した。テーマは環境保護で、話を聞いてとてもためになった。中国と日本の環境は天と地の差があり、比べ物にならないと思った。教授は、日本も当時は環境が悪く、これを重く見て絶えず努力をし、遂に目覚ましい成果を上げたと言う。教授は、私達が中国の今の環境問題をどのように解決すればいいのかを学び、中国に持ち帰るよう教えてくれた。

日本は省エネルギーにおいても目覚ましい成果を上げている。例えば、太陽光発電パネル、断熱の方法、空気冷却、太陽蓄熱調温パネル、躯体蓄熱を利用した放射冷暖房システム、資源の再利用や天然素材の利用といった省エネルギー対策だ。

日本は環境保護と省エネルギーに多くの人力、財力、精力をつぎ込んだ。だからこそ、今日の素晴らしい成果がある。帰国したら、日本の環境保護と省エネルギーへの有効な取り組みを大いに広め、周囲の友達にも話したいと思う。

○ (1) 一番心に残った事：聖和学園高校での交流。

仙台市の朝、柔らかい日の光は遠くに射し、北風が肌寒い。私達は暖かいバスで聖和学園高校に向かった。十数分後、バスが洋風なたたずまいの校内に入り、聖和学園高校が目の前に現れた。震えるほどの寒さだったが、国旗を掲げて私達の到着を歓迎してくれた。

校内は至る所で温かい雰囲気が出ていて、校舎の窓ガラスには歓迎の言葉が貼り巡らされ、学生達が中日の国旗を振りながら出迎えてくれた。教室に入った瞬間、目が黒板に吸い付けられた。黒板には中国語と英語の“熱烈歓迎”の他、私達全員の名前が、可愛い絵付きで書かれていた。

学校側の心配りで昼食は日本の学生と一緒にとった。卓球交流大会では日本の学生が中国の応援にまわるなど、どれも心温まる出来事だった。もう寒さを感じなかった。“情が湧いたら別れが辛い”、別れはいつもすぐにやって来る。先生方や学生達が玄関で“再見”の文字を掲げて見送ってくれた。言いたいことが一杯浮かんだが、ただひたすら手を振り続けた。いつの間にか涙が溢れていた。

(2) 帰国後はまず今回のテーマである環境保護を紹介したい。この点での中日の差は大きい。政府の対策も国民の意識も、その差は大きくかけ離れている。だからこれを皆に知らせたい。同時に私は平和の使者になり、世論と政府のせいで中日両国の人々の間に生じた誤解を解きたい。もちろん、中国の友達にも日本のことを紹介して広めようと思う。

○ 活動に参加する前、日本人はとても利己的で、ちっぽけだと思っていた。活動に参加した後に感じたのは、日本人はとても友好的でやさしく、献身的だということだ。

京都府立山城高校で化学と英語の授業に参加した。化学の授業では、日本の学生はとても一生懸命で手抜きをしないという印象を受けた。そして英語の授業では日本の学生が百人一首の遊び方を教えてくれたのだが、とても親切丁寧に詳しく教えてくれてすごく感動した。

東海大学付属浦安高校ではサッカー交流をした。彼らはとても友好的で、進んで手伝ってくれたり、全体を通して楽しく盛り上げてくれた。

今回の活動を通して、日本の風土と人情を知り、日本人の心を十分に感じた。

○ 今回の訪問で一番心に残ったのは名古屋市港防災センターの見学だ。館内設備が整っていて科学的だ。いろいろな体験コーナーや映像資料も有り、災害や防災措置について良く理解できる。

それから、日本人の親子連れがたくさん来ていた。スタッフや先生に聞いてわかったことだが、日本

では小さいうちから子供に防災意識を持たせることを重視しているのだ。館内の設備も、可愛いアニメなど子供向けにデザインされたものが多い。家庭も社会も子供の防災意識の育成を大変重視しているということだ。

帰国したら、日本の防災への取り組みを周囲の人に話したい。災害発生後の救援も確かに大切だが、発生前の備えはもっと大切だと思う。備えがあれば、災害がもたらす経済と精神、二重の損失を最小限に抑えることができる。

○ 最も印象深かったのは、日本の学生と面と向かったの交流だ。彼らとは、お互いの生活のことや趣味について話し合った。いろいろな体験を通し、中日の学生生活はこんなにも差があるのだと初めて知り、日本の学生生活を羨ましく思った。また、先生と生徒はとても打ち解けていて友達のような関係だ。中国の学校も同じようになればすごくいいのに！

それから私は学生だけでなく、先生とも交流した。先生方は私に、日本はオープンで調和のとれた民主的な社会だと教えてくれた。人々は創造力に富み、多くの長所を持ち合わせているから、日本はここまで発展できたのだと思った。

放課後、日本の学生達の多彩な部活動にも驚かされた。彼らの身体能力の高さは部活動のおかげだと分かった。

中国に帰ったら、皆の先頭に立って省エネルギーや環境保護について伝えるだけでなく、日本の教育方法と理念についても紹介したい。中国でも受け入れられることを願っている。

○ 今回の訪問で一番印象深いのは、四日市公害と環境未来館だ。語り部さんがずっと付いて、四日市の公害がもたらした被害や、どのように克服し、それがいかに大変だったかを話してくれ、とても勉強になった。だがもっと感銘を受けたのは、館内に展示してある、大気汚染で重病を患った市民の写真や喘息患者の録音だ。写真を見て、録音を聞いた時、数十年という時間の隔たりがあるにもかかわらず、私は彼らの苦しみとやるせなさを身に染みて感じた。これこそ環境汚染が人々にもたらした災害だ。高度成長している中国に、二度と過ちを繰り返すなという警鐘を鳴らしている。最後の展示室の天井に描かれていた青い空と白い雲のような、美しい自然環境を皆願っているのだ。帰国したら、家族や友達に日本の環境汚染の改善方法と、省エネルギーや環境保護について伝えたい。日本に行ったことは無駄ではなかった。また、他の面で見聞きしたことも伝えたい。例えば日本側事務局が家族のように至れり尽くせり面倒を見てくれたことは、心温まる素敵な記憶だ。生涯忘れられないだろう。それから日本の青少年との交流、皆が親切にもてなしてくれたこと…。

まさに聖和学園高校の茶道体験で習った“一期一会”のように、皆一緒に座り、お茶を飲む機会は一生涯に一度かも知れないから、お茶を飲む時はいつも感謝の心で、その時を大切にしよう。次また同じ人達が集まって一緒にお茶を飲むことは無いし、飲むお茶も別一杯なのだから。私は日中の先生方や友達と知り合えたことを大切に思う。中日関係がどんどん良くなりますように！

○ 一番心に残ったことは日本人は意外と優しくて我慢強いということ。これは冷たい日本人のイメージとは明らかに違った。私がそう思った一番の出来事は、温泉旅館で親切なおばあさんに会ったことだ。おばあさんは英語は上手くないが、動作や表情で精一杯説明してくれた。私達がお湯に入ると、わざわざ源泉の所まで私達を連れて行ってくれて、とても気持ち良く日本の温泉を味わえた。浴室に忘れ物をしたら、お湯から出て私に教えに来てくれた。顔を洗った後はスキンケア用品の使い方を、自分が

使って見せながら教えてくれた。優しく親切で根気があるのだ。

中国人の日本と大和民族に対する固有のイメージが変わるように、情報発信して今回の出来事を伝えたい。冷淡で厳しそうに見えるのは自信と注意深さの表れで、やたら礼儀正しいのは、人に対する敬意と自尊心の表れなのだ。

○ 一番心に残ったのは京都府立桃山高校への訪問だ。一緒に昼食をとった時、私は少し日本語ができるので、日本の学生と話をした。彼らは自分の名前の日本語読みを教えてくれて、私は自分の“許”という姓の中国語読みを教えてあげた。日本語ではこの発音が難しいようで、“xu”が“shu”（日本語の集という字の発音）になってしまうのだが、とても楽しかった。体育館でのパフォーマンスとダンス交流も素晴らしく、桃山高校の学生はすごいと言うしかない。

私は日本語を学習しているから、日本を少しは理解しているが、多くの人は日本を理解していない。帰国したらまず、私を知っていること、訪問したところで見たこと聞いたことを友達に共有したい。良く知らないこの隣国について、皆に知ってもらい、両国の青少年の間にある誤解を取り除き、友好と理解を促進させたい。

次に、私達が学んだ環境保護や汚染の改善方法を、友達や親戚にも伝えたい。微力でも環境のためになるよう、環境保護のボランティア活動に参加したり、“COP21”の論題を学んだりし、一人一人の観点から環境を守り、汚染の改善に努めたい。

また、防災知識もたくさん学んだ。地震予報や地震発生後の72時間を自力で生き抜くためにすべきことなどだ。それだけでなく、先進科学技術のロボットや生産工業技術も見学でき、大きな収穫になった。

最後に、謝謝(ありがとう)、我的朋友(私の友達)。

○ 活動に参加する前は日本人に偏見を持っていたが、9日間の活動と交流を通して日本人の熱意や友好を感じた。日本の友人が中国に来たり、今後私が日本に留学できればと思っている。

今回の訪問で、日本のことが一段とよくわかった。学校訪問では日本の学生がとても積極的で親切だった。授業では言葉の壁はあったが、英語やジェスチャーで教えてくれて、日本人に対する新しい見方ができた。サッカー交流で見た日本の学生のボールさばきは、私達には真似できない。日本は学生の関心や興味を伸ばすことを重視しているのがわかる。今後は、私達も勉強ばかりでなく、興味にも重きをおいた方がいい。環境保護をテーマにしたセミナーや日本の学生との交流で、日本も昔は中国の現状と同じだったのが、政府と国民の努力で今のような素晴らしい環境になったということがわかった。私達は日本の良いところを積極的に取り入れ、問題解決を未然に防ぐ努力を行うべきだ。

○ 一番印象に残ったのは熊本の高校へ行ったことだ。学生達はとても親切に迎えてくれた。一緒に授業を受け、部活をした。言葉は通じないが、彼らの心にある熱いものを感じた。中国人と一緒に両国の友好関係を促したいという意気込みだ。私は日本の文化も政治経済も大好きだ。彼らと楽しく話ができて、とてもうれしかった。

今日中国に帰るが、日本でたくさん見聞きした興味深い物事や面白い経験を、中国の友達と分かち合い、日本の文化や政治を紹介し、中日友好交流を促進させ、何とか両国関係を改善したい。

○ 参加する前、日本は発達した国で、日本人は皆慎重で細かいことにも気を配る人達だと考えていた。参加して初めて具体的に日本のことがわかった。一つ一つの小さなことに細かい所まで考えを行き届かせる日本人に、私は毎回心を動かされたし、いつも礼儀正しく友好的な所も、接していて心地よかった。このように慎重で細やかな心配りができる民族だからこそ、調和のとれた秩序ある国づくりができるのだと思う。

今回の訪日のテーマは環境保護と省エネルギーなので、特に日本の環境に注目した。飛行機を降りた時の透き通るような青い空は、飛行機に乗った時の一面スモッグでどんよりした北京の空と鮮明なコントラストをなしていた。バスに乗って見た道路はきれいでほとんどごみは落ちておらず、連なる街路樹の落ち葉だけが道路を彩っていた。寺西俊一教授のセミナーでは、日本がかつて直面した環境問題と、環境汚染を改善する取り組みを知り、環境保護のための新しい考え方や方法がわかった。また、中国が直面している環境問題に対する教授の考え方とアドバイスも聞いて、大変参考になった。その後は京都府立園部高校の交流で、私達は日本の学生達と、両国の文化生活や環境保護の取り組みなどについて話し合った。彼らの、活発でおおらかな所と真面目で謙虚な所がとても印象深い。彼らの考えを聞いて、目新しく感じたこともあれば、全く同感することもあった。今回の交流で、日本政府や国民の環境保護と省エネルギーに対する取り組みがわかっただけでなく、日本の学生達との友情という収穫があった。連絡先を交換しなかったのもう二度と会えないかも知れないのが心残りだが、この経験は私の中で一番素晴らしい思い出の一つだ。

○ 今回の訪問で一番印象的だったのは茶道体験だ。熊本の八代東高校を訪問した時、茶道部を訪れた。お茶の前にまずお菓子が一つずつ出され、その後に香り高い抹茶が一杯ずつ運ばれて来た。抹茶の茶碗は一つ一つ皆違う物だ。中の抹茶は表面が豊かに泡立っている。お茶菓子を食べ、一口で茶を飲み干すと、口の中に甘みが残って実に味わい深い。お茶を飲む時は正座だ。時間が経つと足がしびれてくる。しかし先生のお話では、茶道部の学生は 50 分間も正座できるそうだ。凄いと思う。それから私達は自分でも抹茶を点てた。泡立つまで茶せんを上下にかき混ぜ続ける。コツをつかみ自分で点てた抹茶はまた格別だった。帰国したら周りの人達に日本の本当の姿を伝え、誤解を解き、もっと皆に日本文化を知ってもらえるよう、力になれると思う。更に大事なものは、日本の省エネルギーと環境保護の特長だ。今中国は大気汚染の抑制についていろいろ課題があるが、日本はこの点で成功した経験を持つ。帰国したら私が学んで感じたことを他の人達に広め、何か役に立てればと思う。

○ 参加前：遠い存在。かつて中国に学び、近代においては何度も中国と衝突している国。日本についてはあまり良く知らない。

参加後：慎重で、細かい所や小さな事柄を大切にする。礼儀を重んじ、学生教育は総合実践を重視する。

環境面：（１）セミナーを通して、経済より環境問題を優先しなければ大量の無駄が出るということがよくわかった。

（２）日本の学生との交流を通して、環境問題は実は生活習慣の問題であり、生活習慣の改善が、環境を変えるカギであると知った。

（３）先端技術館と京エコロジーセンターの見学を通して、身近な資源を利用し、無駄遣いをやめ、資源を節約しなければならないことがわかった。

○ 日本で一番印象に残っているのは環境保護対策が良くできていることだ。環境がとてもいい。道路は落ち葉だけでゴミは無く、ちり一つない。日本人は一般的教養が有り、環境保護意識が高い。日本らしい歴史文化や名所旧跡はずっと見ていたい気持ちだった。このような忘れ難い経験は、私の人生ですっと心に残る出来事となるだろう。日本人は勤勉で友好的で現実的で慎ましく、人の立場で考えるのが上手い。こういう優れた気質は十分見習う価値がある。歴史を感じさせる日本の建物や、私達に盛んに手を振ってくれた高校生達が今も目に焼き付いている。環境保護対策にも感心したが、日本の教育にもかなり感動した。

日本の学生は私達に比べて勉強は楽で、いろいろな課外活動がある。学生のほとんどが自分の好きな部活に入り毎日活動する。他にもよくいろいろな活動をしている。中国ではこんな事はほとんど無い。私は何人かの日本の学生達と連絡先を交換した。私達は共に力を合わせ、新しい未来を創り、いつか中日関係を改善できると信じている。日本の授業は、単調でつまらないものではなく、先生が十分に準備し、学生と意識的にたくさんやり取りして、活発で面白い授業になっている。私達は互いにプレゼントを渡した。中国に日本の学生の素晴らしい習慣や優れた教育制度を広めて、いつか中国も変わればいいなと思う。

日本の名所旧跡、その建物を見た時は、中国文化と違うようで似ている日本文化の魅力を強く感じた。私は日本という国を忘れられない。周りの人達に日本を語り、紹介しようと思う。本当にありがとう！